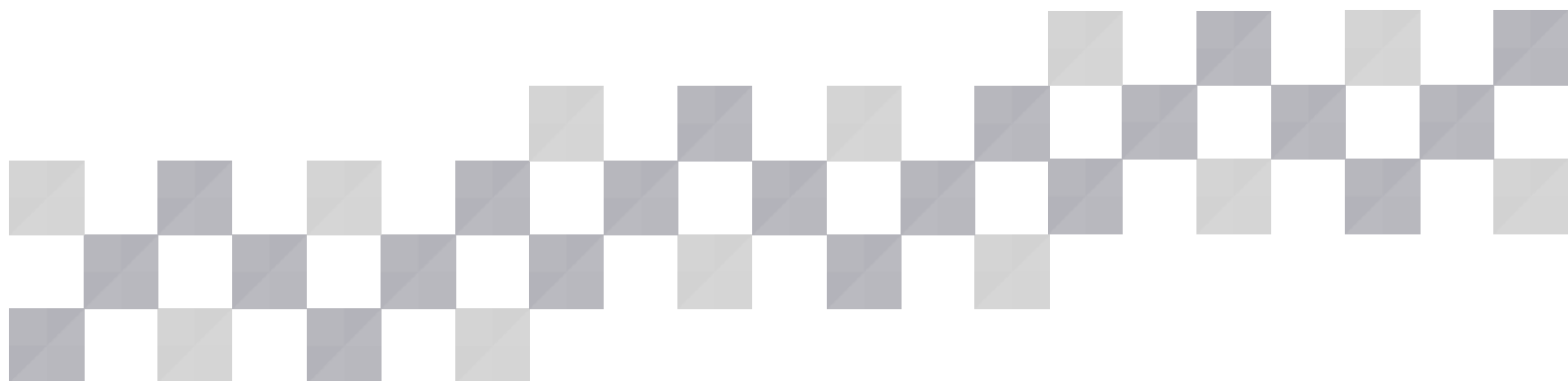


技能講習テキスト

就職活動支援のための模擬面接官実践トレーニング



▶ 1、講習概要

(1) 講習

学生や若年層等に就職活動で模擬面接を通じてキャリアコンサルティングを行う際、カウンセリングを成立させていくことがキャリアコンサルタントにとって重要となります。

当講習では、就職活動支援のための模擬面接官を行う際、カウンセリングの実情と特性を理解し、就職活動の面接サポートを行いながら学生や若年層等へ必要な実践力を通して研鑽します。

(2) 講習を通して習得する目標項目

- ①学生や若年層等へ模擬面接の支援を実施する上での基礎知識の理解
- ②学生や若年層等へ模擬面接の支援を実施する上での相談者の特性の理解とキャリアコンサルタントとしてのアプローチする視点の理解
- ③実際に模擬面接の支援をしながら模擬面接官としてのスキルの向上

(3) 講習を通して習得する、相談者への支援効果

- ①相談者の自己理解の支援
- ②相談者の仕事理解の支援
- ③相談者への情報提供

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(1) 就職活動採用時の面接とは

書類選考を通過して、企業へ出向き採用担当者や経営陣と直接話す機会のことを言います。企業と学生それぞれの思いや条件を確認するためのコミュニケーションを行う場となります。

(2) なぜ企業は面接を行うのか

- ① 会って話すとわかることがある
- ② 雰囲気やコミュニケーション能力について知りたい
- ③ 社風や職種に合っているかを判断する
- ④ どこまで入社意欲があるか
- ⑤ 過去の経験から強みや弱みなどを見つけ即戦力となる人材を探している
- ⑥ ありのままの姿を見たい

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(3) さまざまな面接の方法

1、個人面接

コンピテンシー面接が主流

コンピテンシーとは「高い業績をコンスタントに示している人の行動特性」といった定義があります。そのため面接の最初で「学生時代に力を入れたことは？」と問いかけて「具体的に何をしたのか」「どのようにしてきたのか」など、何を考え、どんな行動を取ったのかを調べる方法のことをいいます。

2、圧迫面接

面接者からの回答に対してツッコミを入れる点が特徴。ストレスに対する精神的な強さや感情をコントロールする力があるかどうかを見るために行われます。

3、逆質問

面接者が面接官に質問をすること。どれだけ企業研究をしているか、入社意欲が高いかなどを見ています。

4、プレゼン面接、技術面接

与えられたテーマで5分程度のプレゼンテーションを行い内容について面接官から質問されます。技術面接は理系に多くみられ、研究内容に特化したものを行います。

5、リクルーター面接

非公式な採用活動のことを言い、採用担当でない社員が行います。リクルーターから学生に接近するため、学生が希望して受けられる面接ではありません。一般的に通過すると人事面接へと進みます。

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(3) さまざまな面接の方法

6、集団面接

◆グループディスカッション

5～6人であらかじめ用意されたテーマについて議論する

◆ディベート

グループディスカッションと同様に賛成派、反対派に分かれる

◆グループワーク

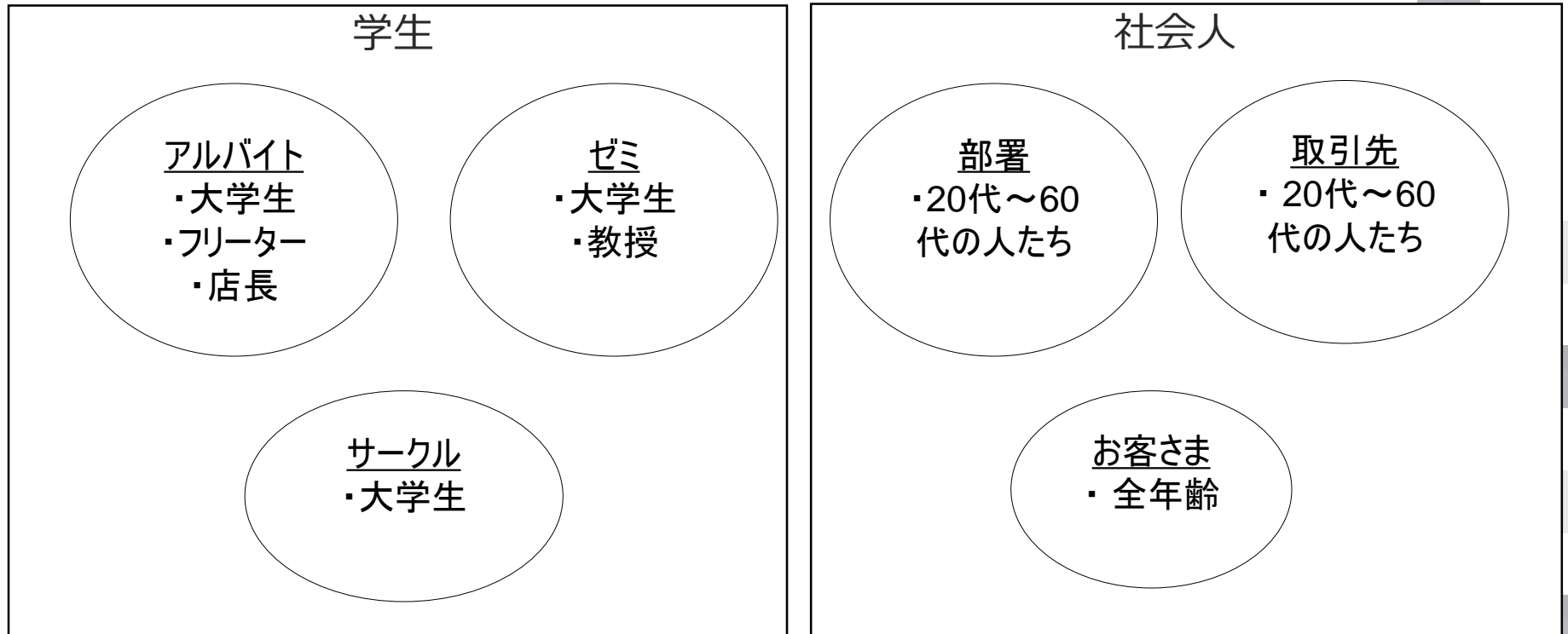
議論ではなくゲームのようなことをする

◆ケーススタディ

その会社の仕事に近い作業をする

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(4) 学生と社会人のコミュニケーションの違い



- ◆関わる人は学生が過半数
- ◆同調するコミュニケーションが多い

- ◆幅広い年代の人と関わる
- ◆成果を求められる

社会人に対してどのように接するのかがわからない学生が多い。
そのためまずは自身の価値観（自己概念）について知ることが必要。

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(5) 価値観（自己概念）について

あなたが大切にしている価値観				
興味のあるものに○をつけてください				
収入 ()	自由 ()	社会貢献 ()	変化 ()	将来性 ()
安定性 ()	進歩・成長 ()	趣味 ()	人的交流 ()	海外・世界 ()
家族・家庭 ()	人の役に立つ ()	休日 ()	自律自由裁量 ()	チャレンジ ()
やりがい ()	評価 ()	能力を活かす ()	リーダーシップ ()	創造的 ()
時間的余裕 ()	楽しい ()	独自性・個性 ()	人を育てる ()	専門性 ()
単独自立 ()	福祉 ()	文化 ()	地位・名誉 ()	遊び ()

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(5) 価値観（自己概念）について

あなたが大切にしている価値観				
興味のあるものに○をつけてください				
収入 ()	自由 ()	社会貢献 ()	変化 ()	将来性 ()
安定性 ()	進歩・成長 ()	趣味 ()	人的交流 ()	海外・世界 ()
家族・家庭 ()	人の役に立つ ()	休日 ()	自律自由裁量 ()	チャレンジ ()
やりがい ()	評価 ()	能力を活かす ()	リーダーシップ ()	創造的 ()
時間的余裕 ()	楽しい ()	独自性・個性 ()	人を育てる ()	専門性 ()
単独自立 ()	福祉 ()	文化 ()	地位・名誉 ()	遊び ()

10選ぶ→7→5→3

※最後に残った3つはあなたの大切な「価値観」です。

これがなくなると「しんどい、つらい」になりやすいため、

頭の片隅に置いて就職活動を行うとミスマッチを防ぐことができます。

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(5) 価値観（自己概念）について

自己肯定感と自己効力感

・自己肯定感とは

自分を肯定する感情のことをいい、いろいろな自分を認めポジティブに考えられることです。

・自己効力感とは

アルバート・バンデューラが提唱している、自分が行うことは効力があると信じられる感情のことで自己実現、目標達成のためには欠かせない要素です。

「自己肯定感」と「自己効力感」の組合せ4つ

1	自己肯定感 ×	自己効力感 ×	自分は人と話すことが苦手だし、新しい営業先を任されてもうまくいかないに決まっている	
2	自己肯定感 ×	自己効力感 ○	自分は人と話すことが苦手なのに、なんかいつもうまく行ってる。今回の目標も達成できると思う。	※自己分析が苦手で部下を指導できないタイプ
3	自己肯定感 ○	自己効力感 ×	自分は人と話すことが好きで、人からも好かれると思う。けど何をやってもあまりうまくいなくて、ついてないなあ。	※何かしらの先入観、イラショナルビリーフを持っている。
4	自己肯定感 ○	自己効力感 ○	自分は話すことが得意だし、高い目標も達成できるに違いない。	

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(5) 価値観（自己概念）について

「ポジティブ・リフレーミング」で相談者の自己肯定感、自己効力感を高めて就活での面接に活用していきましょう。

ポジティブ・リフレーミング

ポジティブ・リフレーミングとは「モノの見方・捉え方を肯定的に捉えなおすこと」です。若年層を支援する際に自己肯定感、自己効力感の高揚に働きかけることができます。

<肯定的に捉えなおす例>

頑固→一貫性がある

飽きっぽい→好奇心旺盛、素直

優柔不断→広い視野がある

変わっている→個性的、独創的

うるさい→活発、元気がいい

地味→ひかえめ

練習問題にチャレンジ

リフレーミング前の言葉をポジティブ・リフレーミングにしてみましょう。

▶ 2、就職活動支援のための模擬面接官基礎知識の理解

(6) 面接の準備

◆具体的な面接準備方法

- ①ESに書いてあるそれぞれの項目について1分程度で話せるようにする
- ②ESの項目になく、質問される可能性のある項目について話せるようにする
- ③話している様子をスマホで動画撮影してしてみる
- ④友人や知り合い等に面接官役を依頼して模擬面接を行う

・ストップウォッチを使って練習する。

(ESに書いてあることを忘れてしまうとマイナスの印象となります。)

- ・自己紹介、自己PR、学チカ、力を入れて取り組んだ学業、志望動機
- ・1分程度で話しているところを動画撮影して見て、くせなどに気づく
- ・模擬面接を行い、どんどんツッコミを入れてもらう

例) 面接官：「学生時代に頑張ったことを教えてください。」

自分：「30人規模のバスケットボール部のキャプテンを務めたことです。
意見の調整をすることの難しさを学びました。」

面接官：「キャプテンをされていて一番大変だったことは何ですか？」

自分：「メンバー間でモチベーションに差があったことです」

面接官：「それに対してどのように対応しましたか？」

▶ 3、事例検討で実践、模擬面接官トレーニング

(1) 面接で聴かれる質問例

- 1、 志望動機
- 2、 学生生活で力を入れたこと
- 3、 自己PR
- 4、 他社の選考状況
- 5、 自己紹介
- 6、 入社後にやりたい仕事
- 7、 何か質問は？
- 8、 研究内容
- 9、 強み、長所
- 10、 第一志望か
- 11、 **弱み、短所**
- 12、 希望職種
- 13、 困難、挫折、失敗経験
- 14、 アルバイト経験
- 15、 サークル・部活動
- 16、 転勤、勤務地
- 17、 学業（ゼミ）
- 18、 趣味、特技
- 19、 企業選びの基準
- 20、 気になるニュース
- 21、 キャリアプラン
- 22、 意思確認
- 23、 ストレスを感じた経験は？
- 24、 海外勤務
- 25、 なぜ営業をやりたいのか
- 26、 小中高の時代のエピソード
- 27、 性格について
- 28、 同業他社との違い
- 29、 留学
- 30、 インターンシップ

▶ 3、事例検討で実践、模擬面接官トレーニング

(2) 実際に模擬面接を行ってみましょう

① 2～4のチームで学生役、面接官役、オブザーバー役をきめます。

② 学生役の人はES事例を見て役作りを行います。

ある程度ご自身がやりやすいように変更して頂いて構いません。

※変更点をチームで共有してください。

③ 面接官役とオブザーバー役で前ページ(1)面接で聴かれる質問例をみながら面接の進め方を考えてください。

④ 面接時間は15分とします。

※このとき、最後の方で必ず「逆質問」の時間を作ってください

⑤ 面接の中で学生役の方からの逆質問で「これはちょっと・・・」と感じた質問をメモしておいてください。

⑥ 終了後は各チームで振り返りを行ってください。

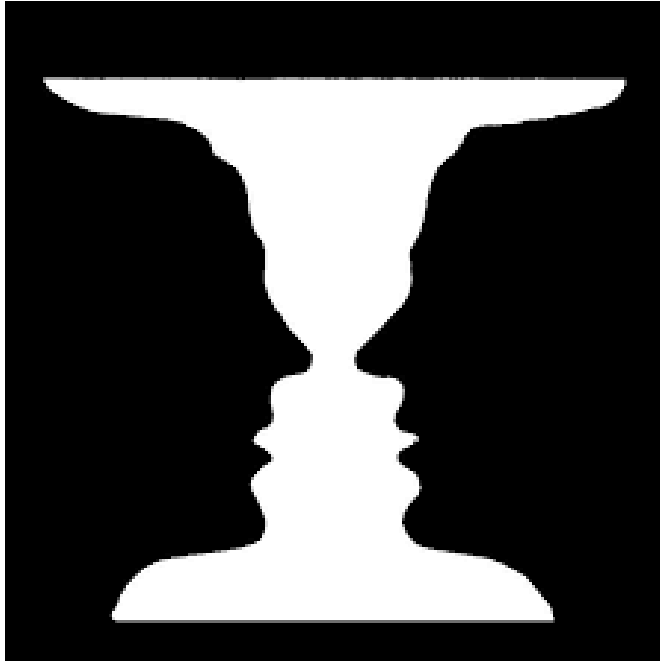
⑦ ⑤の質問を面接官役と学生役が交代して行ってください。

ない場合は「御社は残業代でますか？」で行ってください。

面接官役をした学生役が何を感じたかを話し、逆質問についてどのように改善するかをメンバーで考えてください。

▶ 3、事例検討で実践、模擬面接官トレーニング

(3) ポジションチェンジについて



上の絵は何が見えますか？

ゲシュタルト療法

ゲシュタルト療法は、未完結な問題や悩みに対して、再体験を通して

「今ここ」での「気づき」を得る心理療法です。

エンプロティチエアの技法を応用させて活用しているのがポジションチェンジです。今回はこの技法を応用しました。

学生が逆質問のときに聴きたいことを直接的な言い方ではなく、どのように面接官に伝えるのがベストなのかを自身で体感して理解してもらいます。

例) 「御社は残業代でますか？」

福利厚生に関することは基本的に面接では避けた方がよいです。どうしても聴きたい場合は質問を変えるか、OG・OB訪問でやんわりと知れるようにするのがよいです。または内々定が出てから聴くのもひとつの方法です。

▶ 4、参考資料

「納得の内定」をめざす 就職活動1冊目の教科書
アマゾン他全国有名書店にて取り扱いあり
<http://u0u1.net/Phwd>



人気企業内定者に聞いた
面接の質問「でた順」50 2017年度版

渡辺茂晃 著

日経HR編集部 編

<https://www.nikkeihr.co.jp/book/006.html>